



インボイス制度はデジタル化を進める絶好のチャンス！

# 大学主導の バックオフィスシステム とは？

外部業者頼りのシステム運用から  
脱却するために



# バックオフィス業務は大学運営の土台

学内における業務は学習環境や会計、人事など多岐に渡ります。

その中でもバックオフィス業務を行うためのシステムについて、**カスタマイズコスト**や**複雑化したシステム**、**運用の煩雑化**など、課題を抱えている大学も多いのではないのでしょうか。

バックオフィス業務は大きく「学務系」と「法人系」に分類されますが、**それぞれが独立したシステム**である、**管理事業者がバラバラ**である、といった環境は珍しくありません。

それにより**コストの増加**や**業務効率の低下**を招いてしまう**潜在的なリスク**は、多くの大学にとって重大な課題と考えられます。

昨今では**インボイス制度**の開始が話題となっています。

インボイス制度に対応するのであれば**システムの改修が急務**となるでしょう。

現行のシステム改修や帳票レイアウトの変更を、外部事業者に依頼するケースは多く見られます。

この資料では、

**大学主導で活用するバックオフィスシステムとは  
どのようなものか**紹介します。

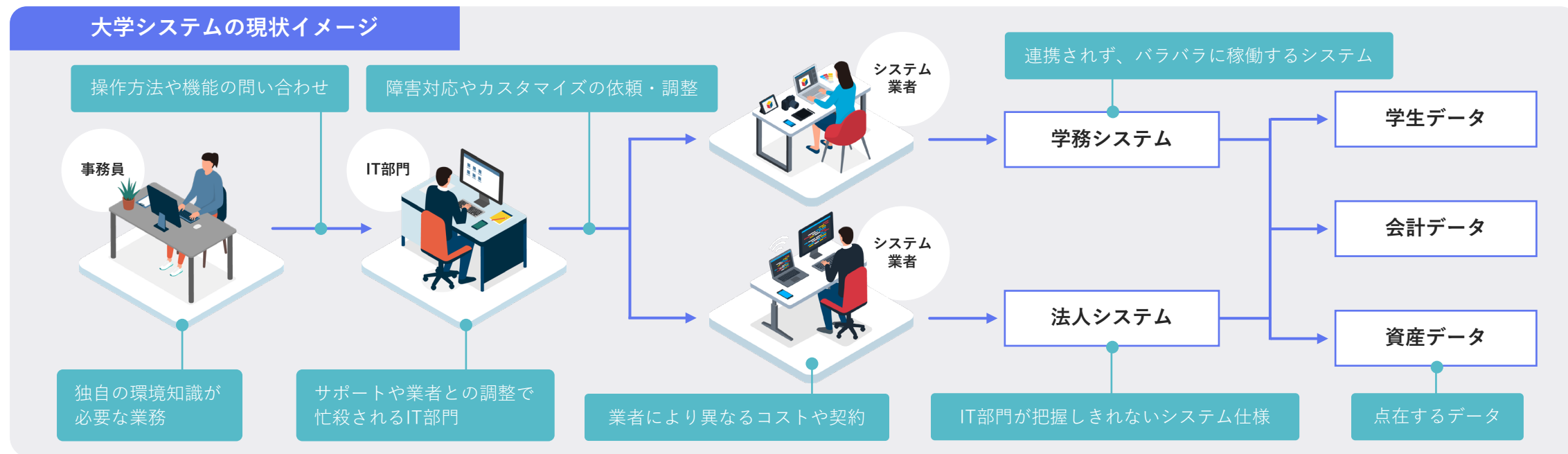


## [ 目次 ]

- P001 | バックオフィス業務は大学運営の土台
- P002 | 大学におけるバックオフィスシステムの現状
- P003 | このような課題を感じていませんか？
- P004 | 課題から生じる将来のリスク
- P005 | 直近では「インボイス制度」への対応が顕著
- P006 | リスクを削減する環境とは？
- P007 | 大学主導で安全な運用を実現するCampus Plan
- P008 | 安全な運用を支えるサポート体制
- P009 | 「大学主導」でシステムを管理する重要性

# 大学におけるバックオフィスシステムの現状

過去に導入したシステムにカスタマイズを重ね、長期的に利用を継続している大学は多く存在するのではないのでしょうか。



貴大学向けに独自カスタマイズされたシステムは、細かな要件に対応することができます。

》 しかし、このようにバックオフィス業務全般として俯瞰すると課題が見えてきます。

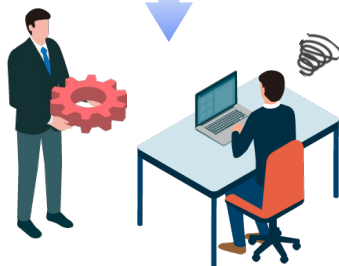
# このような課題を感じていませんか？

現状のバックオフィスシステムには、どのような課題が潜んでいるのでしょうか。

大学主導で  
システムを調整できない

税制や法令の変更に対応する度に  
カスタマイズが発生する

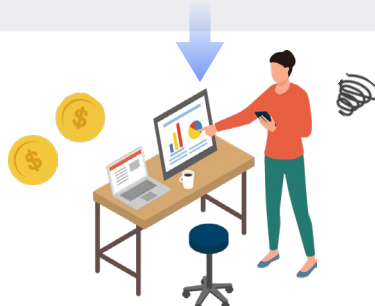
システム内部まで精通している  
担当者がいない



コスト  
計画を立てにくい

システム変更の規模や  
頻度が不透明

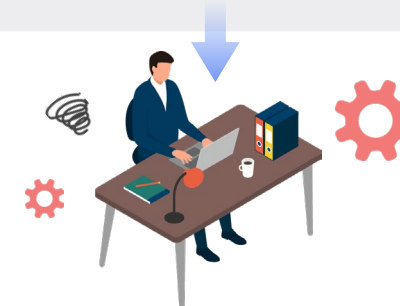
調整が必要になる度に  
見積依頼や調整が発生



システムの  
習熟が難しい

独自システムのため情報が限られ、  
ナレッジが蓄積されない

操作や運用が  
マニュアル化されない



» これらの課題は、今後の大学運営にとって不都合な状況が発生させる原因となる恐れがあります。

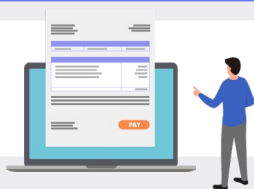
# 課題から生じる将来のリスク

今後の長期的な大学運営を実現する上で、**無視できないリスク**があります。



Time goes by ...

## 今後も発生するシステム変更



法令や取引に合わせた  
帳票レイアウトや内容の変更



脆弱性対応や  
インシデント防止機能の開発

## 各部門の生産性



「IT知識」と「学内の環境知識」両方に精通し、  
その知見で大学システムの管理をする



システムを活用し、  
効率的で正確な業務遂行をする

## 本来求められる業務

## 問題点

業者とのやり取りや  
問い合わせ対応に忙殺される

利用方法や独自の仕様確認に  
リソースが割かれる

》》 システムの個別カスタマイズを繰り返し行うことは、**コスト増加や業務の停滞を招いてしまう**のではないのでしょうか。

# 直近では「インボイス制度」への対応が顕著

現在、多くの大学がインボイス制度への対応の検討や着手をしているでしょう。

行政手続きもありますが、**実務として対応するためにはシステム調整も必要**です。インボイス対応は、前述の課題やリスクが顕在化しやすいと考えられます。



## 適格請求書のデータ化、登録番号の確認と照合

外部業者へ依頼、今後の微調整が必要な場合は再依頼が必要となる



## 操作方法の変更

操作が分からず業務が滞る、IT部門への問い合わせが殺到する恐れ



## 運用開始後の調整

インボイス対応後、学内でのサポート業務や取引先との調整にリソースを割かれる

インボイス制度以外にも、**レイアウトやシステムの改修が必要となるシーンは今後も発生する**でしょう。

» カスタマイズを行う度に、**同様の問題に直面することは、大学にとって大きな損失**となるのではないのでしょうか。

# リスクを削減する環境とは？

前述のようなリスクや課題を打開するためには、どのようなアプローチが考えられるのでしょうか。

## 大学主導でシステムの調整を行える環境

仕組みが標準化され、  
必要な調整は大学のIT部門で行える

IT部門が把握しやすいシステム仕様

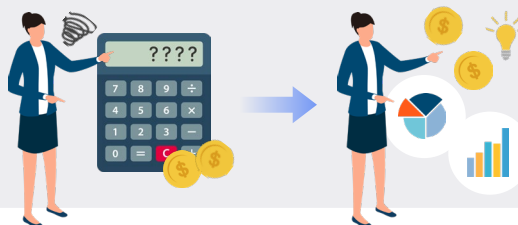


## 明確なコスト計画

必要なコストがわかりやすい製品

実装する機能ごとの明確な費用

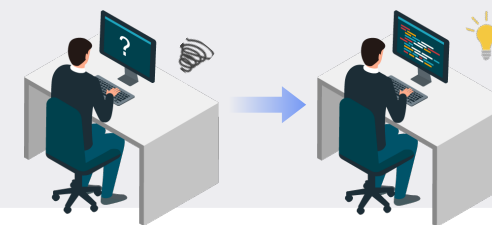
最小限のカスタマイズ



## 仕様がわかりやすく 操作に戸惑わないシステム

多数の運用実績から  
最適化されたインターフェース

システム提供元が作成する  
明確なマニュアル

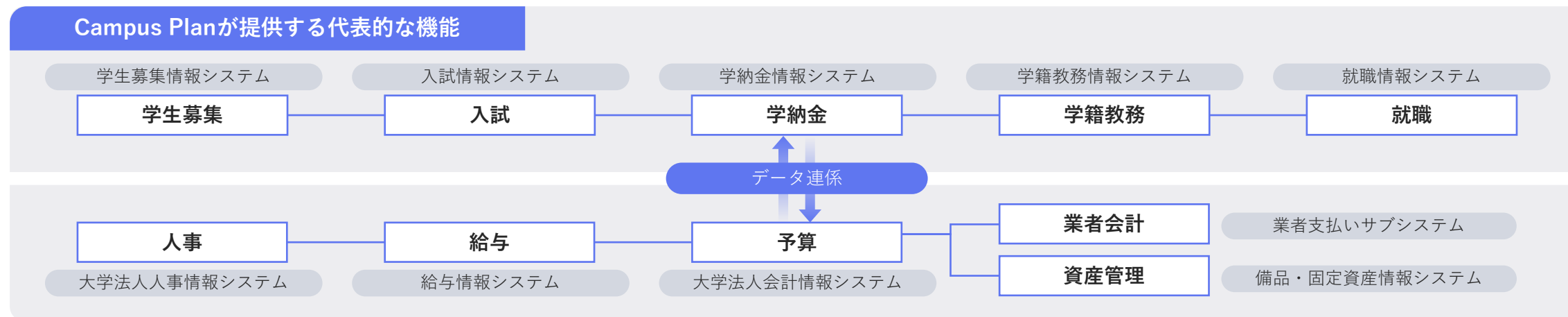


レガシーシステムへの独自カスタマイズは、**些細な変更でも積み重なればシステムの複雑化**を招きます。

» 多くの環境で利用することを前提とし、**標準化されたシステムの利用は有効なアプローチ**と言えるのではないのでしょうか。

# 大学主導で安全な運用を実現するCampus Plan

Campus Planは、学務と法人両方の業務に対応し、それぞれが連携できる総合情報システムです。



＼ これまで以上に柔軟な業務を実現する**実用的な機能**も搭載 /

## 帳票のレイアウト変更

製品搭載の全帳票は、お客様の手でレイアウト変更や項目追加が可能

## 詳細なデータ抽出

保存される膨大なデータを、多様な検索条件で抽出可能

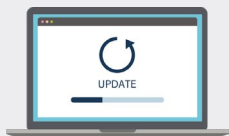
Campus Planでは、業務ごとに対応した**システムが連携することで、学内の情報を一元管理**することが可能です。

》 **バックオフィス業務全般をカバーする多機能性を実現した上で、業務の効率化や柔軟性の向上を見込むことができます。**

# 安全な運用を支えるサポート体制

多機能な製品を導入した際、「**使いこなすことができるか**」が重要な課題となるでしょう。  
Campus Planはきめ細かく使いやすいサポート体制※1をご提供しています。

※1/年間サポート契約が必要です。 ※2/カスタマイズ部分は別途見積となります。



製品標準機能の範囲は無償バージョンアップ ※2  
法令対応など一般的に必要な変更は製品のバージョンアップで対応



操作講習会  
新任の担当者様向けに無償で講習会を実施



電話・FAX・メールでのサポート体制  
ご不明点やお困りごとを迅速に解決



FAQ  
よくある質問形式のFAQをご提供



実際の対応  
リモート操作による対応サポート/訪問作業も可能



マニュアル  
基本操作はマニュアル化済み

事務員はスムーズな業務遂行が可能となり、IT部門への問い合わせも削減されます。

》》 それぞれが**本来の業務に注力できる環境が整い、生産性の向上**を見込めます。

# 「大学主導」でシステムを管理する重要性

バックオフィス業務を包括する大規模なシステムは、専門の事業者にて開発されることが一般的です。

しかし、そのシステムを活用し、成果を出すのは開発業者ではなく、システムの利用者です。

外部の事業者に頼りきりのシステムは、生産性の低下やコストの増加を招いてしまうリスクがあります。

大学主導で必要な調整ができる環境を、システムの仕組みとして実現する必要があると、パナソニック デジタル株式会社では考えます。

## 大学主導のシステム調整が可能な学園総合情報システム



IT部門の作業で完結できるシステム調整

安心して業務を遂行できる充実のサポート

もっと詳しく知る



貴大学の用途や予算に合わせ、機能を個別にご提案することも可能です。

大学主導のシステム管理を実現するために、ぜひお問い合わせ下さい。

ご連絡先

パナソニック デジタル株式会社

大阪本社

TEL / 06-6906-2801 住所 / 〒530-0053 大阪市北区末広町2番40号

東京本社

TEL / 03-5148-5634 住所 / 〒104-0061 東京都中央区銀座8丁目21番1号

**Panasonic**